

8. 11 祝 山の日制定

朝日庄内の風

第 21 号
平成28年 10月 5日 発行

朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合 3

TEL : 0235-58-1730

FAX : 0235-58-1731

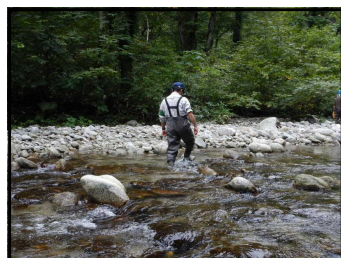
E-mail: t_syounai_f@maff.go.jp

Home Page: <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

jp/tohoku/syo/asahi/

朝日山地合同パトロール(渓流コース)

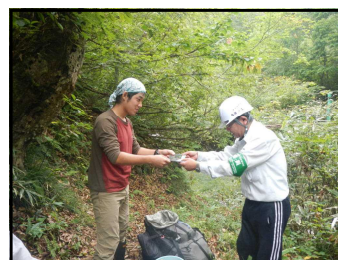
9月12日(月)、巡視員と当センター2名の計3名で、朝日鉱泉～朝日川～二俣～朝日俣沢の渓流コースにおいて、パトロールを実施しました。



朝日俣沢のパトロール

禁漁区で森林生態系保護地域保存地区に設定されている二俣～朝日俣沢において、釣りの痕跡や実態がないか重点的にパトロールを行ったところ、歩道から沢に下りた形跡がなく、沢の砂地にも足跡がなかったことから、結果として釣りの実態がないことを確認しました。

また、登山道を外れた踏み込みやゴミの投棄等も見られず、入山者のマナーの高さを感じ取れるパトロールでした。



入山者へのマナー啓発

朝日山地合同パトロール(山岳コース：小朝日岳)

9月24日(土)、巡視員2名、山形森林管理署3名、センター1名、計6名で、西川町日暮沢～古寺山～小朝日岳間のパトロールを実施しました。

今年は山の日制定効果があったのか、登山口駐車場は既に満車の状態で、例年に比べ入り込みが増加していることがうかがえました。

早速登山者へマナー啓発のため、パンフレットを手交し、朝日山地森林生態系保護地域における植生保護等についてお話させていただきました。



紅葉始まる歩道を進む

パトロールを開始してコースを登って行くと、駐車車両台数の多さに予想はしていましたが、多数の登山者に出会え、所持していたパンフレット全て配布することができ、効果的なパトロールとなりました。

登山者からのお話では、首都圏のみならず関西方面から来られたという方もおり、朝日山地の魅力が大きいことが実感できました。

パトロールの結果、歩道上に僅かなゴミがあったほかは植生への攪乱等の異常も無く良好な状況であることを確認できました。

来年度においても、さらに登山者が増えると思われることから、管轄署等と連携しつつパトロールを継続していきます。



足場を確認しながら慎重に

朝日山地合同パトロール(山岳コース：以東岳)

9月24日(土)～25日(日)に朝日森林生態系保護地域の合同パトロール(以東岳：標高1,772m)を行いました。参加者は、巡視員4名、環境省1名、森林管理局1名、庄内署1名、センター2名の総勢9名で実施しました。今回実施したルートは平成25年度に実施して以来3年振りで近年、入り込みが増えている以東岳を周回するパトロールを行いました。1日目の行程は、泡滝ダム登山口からタキタロウ山荘へ向かい、途中、七曲りでは登山道を外れてショートカットする登山者がいるため山腹が荒廃している箇所があり、今年度センターの新たな取り組みとしてショートカットを



巡視員等のパトロール



外れたロープの補修

規制するロープを設置したことから、山荘までのパトロールに合わせて点検しながらタキタロウ山荘へ向かいました。2日目の行程は、山荘から以東岳直登コースとオツボ峰経由コースの2班に分かれてパトロールを行い、森林病虫害(マツノクロボシハバチ等)の状況確認、高山植物の盗掘・踏み荒らしの点検、保護地域の表示看板の整備、登山者へマナーガイドの配布を行いました。当日は、以東岳山頂にガスが掛かり視界が悪いあいにくの天候でしたが、オツボ峰周辺から上部は紅葉の最盛期でシルバーウィーク最後の週末で大勢の人で賑わっていました。

今回のパトロールで気付いた点は、登山道のはみ出しや、ストックによる土壌の掘り起こしが見受けられました。また、直登コースでは登山者の踏圧により登山道(環境省が借り受けている。)の一部損傷している箇所がありました。

環境省では朝日山地の保全作業(主に登山道の補修・保護)を実施しており、当センターでも資材提供や保全活動に参加していますが、当センター主催の保全作業の可能性についても検討したいと思います。



登山者へマナーガイドの配布

朝日自然塾2 ハッチョウトンボ観察&灯火採集 大井沢で一日昆虫博士

7月9日(土)朝日山地の麓、山形県西川町大井沢に、小学生親子等21名の参加者が集合し、講師が教えるハッチョウトンボや、カブトムシ、クワガタムシなど、昆虫の珍しい話に耳を傾けながら、生き物たちが生息できる自然環境の大切さを感じ取っていました。

あいにくの雨で、楽しみにしていたハッチョウトンボ観察と灯火採集が中止になりましたが、昆虫博士秋山先生(西川町役場)の不思議で面白い昆虫の話に、子供たちは夢中で耳を傾けていました。



多くの参加者で賑わいました



昆虫博士の話

昼食は、大井沢野菜カレー。かまどで炊いた美味しいご飯に色とりどりの野菜。原館長(大井沢自然博物館・伝承館)こだわりの逸品を、子供たちは笑顔でおいしそうに食べていました。楽しい昆虫の話と、自然の大切さを学び、来年こそ晴れ、そして再会を約束し合いながら参加者の皆さんは大井沢を後にしました。

朝日自然塾3 みんなで歩こうタキタロウへの道



足元に注意しながら進もう

7月15日（金）、鶴岡市立あさひ小学校5年生児童30名、教師4名、自然塾のスタッフ10名の総勢44名でタキタロウが棲む大鳥池を目指しました。

梅雨特有の厚い雲に覆われ、天候がやや心配されましたが、児童たちは元気一杯。岩場やぬかるみ、沢の中、足場の悪い幾つもの難所を、励まし合いながら皆で乗り越えました。最後の急斜面「七曲り」を息を切らしながら登り終えると、そこには伝説のタキタロウが棲む大鳥池が。初めて目にするその景色の雄大さに驚きの声や

歓声があがりました。

森林の働きやそこに棲む動物、珍しい草花、そして山でのルール等、教室では聞けない話をたくさん聞きながら、全員が元気に登山を満喫しました。



ついにたどり着いた大鳥池（標高963m）

朝日自然塾4 プロが教えるイワナ釣り

7月23日（土）、夏休み最初の土曜日に朝日自然塾（第4回）「プロが教えるイワナ釣り」を鶴岡市大鳥の東大鳥川で開催しました。当日は、梅雨の合間の晴天に恵まれ絶好の釣り日和となりました。

参加者は、鶴岡市、山形市の小学生から中学生の親子25名が集まり、山形県溪流釣協議会の鈴木会長ほか3名が講師となり実施しました。受付終了後、鶴岡市のマイクロバスで東大鳥川へ向かい、講師から釣りの注意事項や釣り竿の流し方の説明を受けた後、3班に分かれて川に入り釣りを開始しました。東大鳥川は例年になく



水量が少なく約30分で釣果は1匹のみで、釣りの難しさを実感したようでした。その後、隣接の釣り堀でイワナやニジマス釣り、釣った魚の腑取り、毛針づくりを行い、スタッフが焼いたイワナの炭火焼きを骨まで食べて、満足したようでした。

今回は、東大鳥川の水量が少なかったため、溪流での時間を十分確保できませんでしたが、次回は溪流での時間を十分確保できるように計画して参ります。



イワナの炭火焼き

森林整備（鶴岡市大鳥）

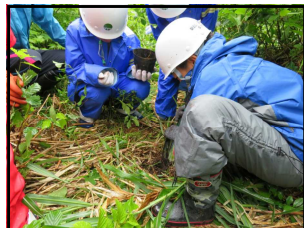
7月14日（木）、地元小学生（あさひ小学校）5年生31名、教頭先生ほか3名、山形大学農学部菊池准教授、センター職員3名計39名により、朝日山地森林生態系保護地域内におけるスギ人工林から針広混交林への誘導作業（下草刈り、山取苗植え付け）を行いました。児童に森林を育てる感覚を養わせたいとの小学校からの要請もあり、

今回初の試みとして取り組みました。

あいにくの降雨でしたが、児童さん達はとても嬉しそうに作業を行っていました。

作業のお陰で、ススキで覆われていた地表はキレイに刈り出され、来春の天然下種による発芽が期待されるところです。

この取り組みは今後4年間継続することから、健全な針広混交林の生育に期待しています。



山取苗を植え付けました



下草を刈り払います

看板整備（保護区域の標示）

朝日山地森林生態系保護区域の取組と区域を明示するため、保存地区と保全利用地区の境にそれぞれ説明看板を整備しています。経年設置により破損した看板の付け替えや設置場所が正しいのかGPSで確認しながらの作業となります。

特に保存地区は登山道入口から4～5時間の場所に多くあり、夏場の作業は根気と体力の勝負になります。



保存地区の看板設置

編集後記

7月から9月は、朝日自然塾のプログラム3回、朝日山地の合同パトロール3コース、保護地域の看板設置・取り替え、歩道規制ロープ設置等過密なスケジュールでしたが、関係者の協力を得ながら無事実施することができました。ご協力を頂きました皆様にお礼申し上げます。

なお、各イベントの実施結果につきましては、当センターのHPに掲載しています。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/index.html>)